

第12期 株主通信

平成23年4月1日～平成24年3月31日



社長インタビュー

第12期（平成24年3月期）の業績概要と今後の取り組み、アニコムグループの経営方針等について小森代表取締役社長に聞きました。

Q 2011年度（2012年3月期）の総括をお聞かせ下さい。

年初から振り返りますと、ペット業界における震災対応と、被災地の復興支援に取り組みました。私自身、阪神・淡路大震災を神戸で体験していますので、できる限りの支援を行いたいと思っています。東北には、被災したペットがたくさんいます。家族と離れ離れになって、シェルターにいるペットのケアをする獣医師を社内から派遣するなどの人的な支援や、皆さまから頂いた義捐金を有効に活用できるように、被災したペットの診療費を義捐金から支払う仕組みの構築と運営支援を行いました。引き続き、保険会社グループとして、災害時の緊急体制づくりに貢献したいと思っています。

さて、当社グループの中核事業であるペット保険事業においては、全国のペットショップ代理店において、ペット保険の販売は年間を通じて堅調に推移しました。震災後の混乱する状況の中で、保険募集に努めて頂いた代理店の皆さまには本当に感謝しています。また、ゴールデンウィーク、お盆、クリスマスや年末年始には販促キャンペーンを実施し、代理店様と一体となって、新規契約の獲得に尽力しました。一方で、既に家族として飼われているペットの保険加入を促進すべく、信金・銀行、保険会社、職域代理店との提携を進めており、2011年10月からは朝日生命様において全国募集が開始されるなど、幅広いチャネル展開が進んでいます。

商品設計については、2010年10月1日から実施した補償内容の拡大によって、ご契約者様への還元を高め、ペット保険市場の拡大スピードの向上を狙いました。新規契約の増加には効果を発揮しましたが、予想を上回る損害率の上昇が見られたため、経常収益は順調に増加したものの、経常利益はわずかながら前期を下回りました。

当社グループにとって、損害率の適切な管理は重要な経営課題であると認識していますので、適正なコントロールができるように、デイリーでの状況分析と対応策の検討・実行に注力しています。



アニコム ホールディングス株式会社
代表取締役社長

小森 伸昭

Q 補償内容の拡大を実施したことで、大きな変化や気づきはありますか？

ご契約者様のみならず、動物病院様やペットショップ様との対話を促進したことで、ペット保険に対する新たなニーズや、保険の使われ方がより明らかとなり、多くの課題が見えてきました。例えば、単なる皮膚の疾患であっても、長期に亘る治療が行われる場合があります。通院頻度も高いのですが、なかなか治らない。こうした場合には、専門的な診療が必要です。保険金をお支払いするだけではなく、保険会社からベストな診療をご紹介するなど、飼い主様の根源的なニーズに応えるべきだと考えています。また、高度診療に対するニーズや、生活習慣病の対策、予防、生活品質の向上、高齢化への対応など、取り組むべきことは山積していると認識しています。こうした課題に一つ一つ真摯に取り組み、飼い主様のニーズに応えていくことで、使える・便利なペット保険を普及させたいと改めて決意いたしました。

検討の結果、本年8月から、90%補償商品の引受けを停止することにさせて頂きました。想定したよりも、リスクの濃縮が進み、

損害率が上昇してしまいました。しかし、リスク濃縮と言うことは、ニーズの偏在も進んだと考えています。この経験・学びを次の商品設計に活かして、より良い商品を提供したいと思っています。

Q ペット保険市場の今後の見通しと、拡大手法について

2011年度当社グループは、多くの新聞や雑誌、テレビに取り上げて頂き、露出も高まりました。反響は、予想以上に大きいものですが、ペット保険の先進国であるイギリスと比べると、まだまだ市場拡大の余地があります。テレビコマーシャルなど大々的な宣伝広告を行って、拡大スピードを上げる施策も検討していますが、現状におけるペット保険の認知度や理解度を考えると、ペット保険の知識をしっかりと持った代理店や募集人からの丁寧な説明と、共感が必要だと感じています。

また、当社グループは創業してから広報活動を積極的に行っており、例えば2012年2月に実施した「チョコレート中毒の注意喚起」に関するニュースリリースは、全国紙、地方紙、各種雑誌など多くの紙面に取り上げて頂き、中毒事故予防の啓発とともに、当社グループの活動内容、保険データの有用性を広く知って頂くことができました。このような認知度を高める着実な活動を通じて、質の高いペット保険市場を創りあげたいと考えています。

Q 予防への取り組みについて聞かせて下さい。

2011年度の下期から、本格的に「予防の科学」に取り組み始めています。2年前から、『家庭どうぶつ白書』を発刊しており、犬種別の発症特性や疾患データを公開していますが、そもそもなぜその疾患に罹るのか、どうすれば再発は防止できるのか？ということをご契約者様から頂く保険金請求の1件1件を確認しながら、科学をしています。

例えば、誤飲事故を考えてみます。誤飲事故とは、ペットが本来食べるべきでない“もの”を飲み込んでしまう事故であり、飼い主が服用する錠剤や、焼き鳥の串、おもちゃ、ガラス製品など、多種多様なものを誤って飲み込んでいます。この事故は、保険金支払い総額では第7位にランキングされる頻度の高い事故で、な

んと一日に34件も発生しています。今、こうしている間にも全国どこかで事故が起きているのです。フォークやナイフなど鋭利なもの、タオルや紐など胃や腸で絡まる恐れがあるものを誤飲した場合には、死に至る場合もありますし、麻酔を使用した開腹手術が必要なこともあります。再発の頻度も高く、繰り返し誤飲する子が多いのですが、これは防ぐことができる事故なのです。

誤飲する可能性のある“もの”の管理方法、環境の整備、飼い主として改善すべきこと、ペットにしつけるべきことなど、一つ一つの事故を科学しながら、対策を考え、少しずつですが、予防の実践を開始しています。当社グループは、涙を減らす保険会社を目指し、予防型保険の提供に徹底して取り組みたいと考えています。

Q 最後になりますが、2012年度（2013年3月期）の活動方針をお聞かせ下さい。

2012年度は、アニコム損保が開業してから5年度目の営業年度となります。成長戦略の大きな変更は想定していません。これまで築き上げた営業基盤をより強固なものにするとともに、適正なスピードでチャネル拡大を促進する方針です。5年度目という節目となりますので、適切な保険募集、情報の管理、コンプライアンスの遵守など、保険会社としての基礎を更に磨きあげたいと考えています。

具体的な業績予想ですが、連結経常収益15.970百万円(対前年比15.3%増)、経常利益755百万円（対前年比124.0%増）を見込んでいます。

繰り返しになりますが、「適切な損害率のコントロール」と「予防の科学」。これが本年度のキーワードであり重要施策です。全精力を注いで、取り組みます。

ありがとうございました。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当年度末	前年度末
	平成24年3月31日現在	平成23年3月31日現在
資産の部		
現金及び預貯金	5,098	3,682
有価証券	7,444	7,065
有形固定資産	93	96
無形固定資産	387	374
その他資産	1,981	1,975
繰延税金資産	353	187
貸倒引当金	△ 5	—
資産の部合計	15,355	13,382
負債の部		
保険契約準備金	7,152	5,920
その他負債	1,073	824
賞与引当金	55	46
特別法上の準備金	0	2
負債の部合計	8,283	6,793
純資産の部		
資本金	4,194	4,178
資本剰余金	4,084	4,068
利益剰余金	△ 1,211	△ 1,677
自己株式	△ 0	△ 0
株主資本合計	7,067	6,569
その他の包括利益累計額	3	18
その他有価証券評価差額金	3	18
純資産の部合計	7,071	6,588
負債及び純資産の部合計	15,355	13,382

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当年度	前年度
	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
経常収益	13,845	11,107
経常費用	13,508	10,764
経常利益	337	342
特別利益	1	—
特別損失	7	14
税金等調整前当期純利益	331	327
法人税及び住民税等	23	16
法人税等調整額	△ 157	△ 110
法人税等合計	△ 133	△ 93
少数株主損益調整前当期純利益	465	421
当期純利益	465	421

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当年度	前年度
	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで	平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,879	1,792
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,044	△ 1,936
財務活動によるキャッシュ・フロー	28	38
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	864	△ 104
現金及び現金同等物の期首残高	679	784
現金及び現金同等物の期末残高	1,543	679

連結株主資本等変動計算書

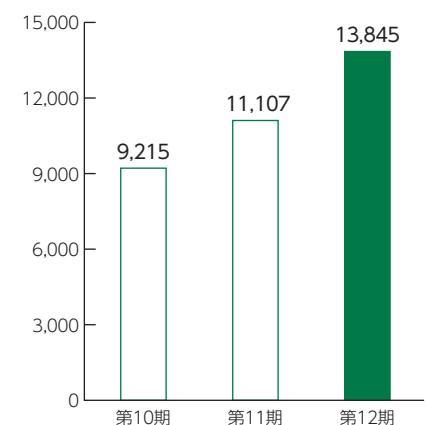
(当年度 平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計	
平成23年4月1日残高	4,178	4,068	△ 1,677	△ 0	6,569	18	18	6,588
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	16	16			32			32
当期純利益			465		465			465
自己株式の取得				△ 0	△ 0			△ 0
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)						△ 14	△ 14	△ 14
連結会計年度中の変動額合計	16	16	465	△ 0	497	△ 14	△ 14	482
平成24年3月31日残高	4,194	4,084	△ 1,211	△ 0	7,067	3	3	7,071

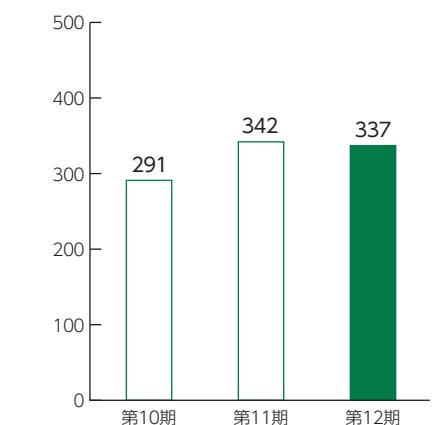
経常収益

(単位：百万円)



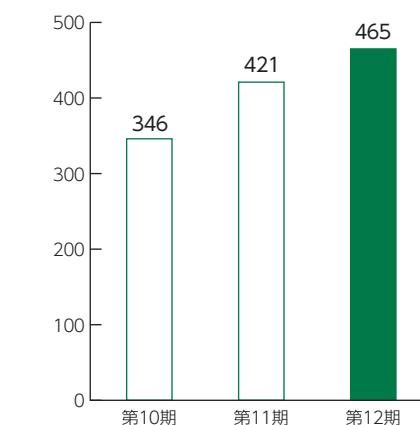
経常利益

(単位：百万円)



当期純利益

(単位：百万円)



被災地のどうぶつ救援活動



当社では2011年3月11日に発生した東日本大震災後すぐに、被災地のパートナー、特に動物病院の状況確認を行い、診療可能な動物病院の情報をいち早くホームページ上で公開いたしました。その後、社団法人日本獣医師会や緊急災害時動物救援本部の活動支援として、ボランティア受付業務システムの構築、救援医療物資の管理と発送先調査および発送、現地情報の発信、グループ内獣医師によるボランティア健康相談を行っています。また、被災者のペットの診療・治療費用の一部を、「緊急災害時動物救援本部」等に寄せられた義捐金から支援する仕組みを提案して、事務運営の支援を行いました。これらのどうぶつ救援活動に対して、日本獣医師会より特別感謝状と、宮城県獣医師会、仙台市獣医師会より感謝状をいただきました。

『家庭どうぶつ白書 2011』を発売



当社は2011年11月21日に、『家庭どうぶつ白書2011』を発売しました。2009年度の契約を中心とした保険金支払いデータに基づいたペットの疾病統計、アンケートや独自調査の結果など、ペット保険を中核事業とするアニコムグループならではの多くのデータを収集し、様々な角度から分析し、掲載しております。また、2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、「災害とどうぶつ医療」をTOPICとして取り上げております。これらのデータを飼い主の皆さまや動物病院など、幅広く共有していくことで、ペットを取り巻く環境がより良くなることを願い、継続的に開示を進めてまいります。

ご契約者向け「どうぶつライフサポートサービス」を開始



アニコム損保は、2011年10月3日から、ご契約者向け特典として「どうぶつライフサポートサービス」を開始いたしました。これは、アニコム損保がTBグループと提携し、厳選した全国のペットと泊まれる宿・ホテルや関連する施設などにおいて、優待・割引等の特典を提供するご契約者専用のサービスです。ご契約者は、アニコム損保のWEBサイトよりアクセスのうえ、該当施設で「どうぶつ健康保険証」を提示するだけで特典を受けることができます。利用可能施設は順次拡大予定です。

「犬と人間との関係」を学ぶ視聴覚教材を作成・無償提供を開始



当社は、2011年11月から小中学生向け視聴覚教材DVD「ラッキーとすごした夏休み」を作成し、学校関係者・各種団体への無償提供を開始いたしました。日本では、少子高齢化、ペットの「家族化」に伴い、犬と一緒に生活する家庭が増えてきました。しかし、「犬は、可愛がるだけの動物ではない」ことをアニコムグループは伝えたいと考えています。嗅覚の優れた犬、聴覚の優れた犬、泳ぐことを得意とする犬など犬種によって様々な特徴を持っています。こうした犬たちの優れた能力を、私たち人間社会は様々な場面で享受しているのです。人間と動物がよりよく共存できる社会をめざして、「犬の特徴と人間との関係」を子供たちに知ってほしいと考えております。

キッズニア甲子園「ペットショップ」の来場者数が53,000人を突破



当社が出展するキッズニア甲子園内の「ペットショップ」パビリオンにおいて、2009年3月のオープン以来、累計の来場者数が53,000人を突破しました。このパビリオンでは、子供たちが家族の一員であるペットの「迷子札」のデザインを考え、世界でたった一つの迷子札を作る体験を通じて、「ペットが迷子になったときのリスク」や「命ある動物を飼うことへの責任」など、ペットを「家族」として責任を持って可愛がることの大切さを学んでいただきました。(なお、キッズニア甲子園への出展は2011年5月6日をもって終了しております。)今後も、次世代を担う子供たちにペットと暮らす楽しさと責任を伝えてまいります。

当社ホームページでは、株主・投資家の皆さまに向けた企業情報・財務情報をはじめ、当社グループのCSR活動や経営パラメーター、広報・IRブログなどをご覧いただけます。当社グループをさらにご理解いただくためのツールとしてぜひ活用ください。



IR情報では、財務ハイライトやIRライブラリ等をご紹介します。また、「IR情報」トップページには半期毎に社長インタビューを掲載し、株主・投資家の皆さまへ「わかりやすいIR情報」をお伝えしてまいります。
<http://www.anicom.co.jp/>

株主の皆さまの声を聞かせください

当社では、株主の皆さまの声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 8715

いいかぶ 検索

空メールによりURL自動返信
kabu@wjim.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を贈呈させていただきます。

※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2media)についての詳細 <http://www.a2media.co.jp> ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) 「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

株式の状況／会社概要

株式および株主の状況 (2012年3月31日現在)

発行可能株式総数	48,000,000株
発行済株式の総数	16,645,600株
当期末の株主数	1,523名

大株主の状況

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,856	11.2
日本フастィサービス信託銀行株式会社(信託口)	1,539	9.2
小 森 伸 昭	1,253	7.5
ソニー損害保険株式会社	1,143	6.9
野村信託銀行株式会社(投信口)	929	5.6
ジャフコV1-B号投資事業有限責任組合無限責任組合員 株式会社ジャフコ	764	4.6
C B C 株 式 会 社	666	4.0
KOMORIAセットマネジメント株式会社	550	3.3
アニコム ホールディングス取引先持株会	474	2.8
ジャフコV1-A号投資事業有限責任組合無限責任組合員 株式会社ジャフコ	458	2.8

会社概要 (2012年3月31日現在)

社 名	アニコム ホールディングス株式会社
設 立	2000年7月5日
資 本 金	4,194百万円
本 社	〒161-0033 東京都新宿区下落合一丁目5番22号

役員の状況 (2012年6月27日現在)

代表取締役社長	小 森 伸 昭
常務取締役	百 瀬 由 美 子
取 締 役	須 田 一 夫
取締役(社外)	岩 崎 俊 男
常勤監査役(社外)	猪 俣 吉 彦
監査役(社外)	岩 本 康 一 郎
監 査 役	藤 田 信 一 郎
監査役(社外)	岡 部 紳 一

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

公告方法	電子公告にて行う
	公告掲載URL http://www.anicom.co.jp/
	ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。